

日本とアメリカの中学生の 放課後の過ごし方の比較

広島県広島市立井口台中学校	八松 泰子
岡山県倉敷市立南中学校	鍵本 芳明
岡山大学教育学部附属中学校	梶原 敏

1 研究テーマ

日本とアメリカの中学生の放課後の過ごし方の比較

2 研究協力者

ノースカロライナ州 (ロッキーマウント エッジコム郡を中心にして)

○ Assistant Director International Programs East Carolina University

Dr. Donald Spence 先生

○ West Edgecombe School

Josie B. Davis 校長先生

J. Lynn Cale 副校長先生

Mary W. Owens 先生

Jacqueline H. Eason 先生

○ 4-H Extension Agent

Lesa R. Walton さん

Sharon Agers さん

○ The Rocky Mount Family Y.M.C.A

Todd W. Stuart さん Director of Operations

○ Superintendent Edgcomb County Schools

Dr. David Bryant さん

○ Edgecomb County Schools Curriculum and Instruction

Michael Beecham さん

ミネソタ州 (レッドウッド郡を中心にして)

○ Teacher and School Leader, Redwood Valley High School

Dale Erickson 先生

○ Redwood Valley Middle School

Meischke 校長先生

○ Plymouth Middle School

Vern Ahrnet 校長先生

3 研究の目的

アメリカの中学生は放課後、学校の延長線上で行動しているのではなく、自由に自分でやりたいことを選び、主体的に取り組んでいるのではないかという仮説をもとに研究をすすめることとした。

この研究の目的は日本とアメリカの中学生の放課後（授業を終えた後）の生活を調べることによって放課後の生活の実態とどういう意識で過ごしているのかを明らかにすることである。それによって類似点と相違点を明らかにし、お互いのよい点や特徴的なことを学ばせ、それぞれの国、地域や文化の背景を理解し合い、よりよいものを作っていく態度を養わせようと考えた。そのために以下のような方法でこの研究を行った。

- ア. アンケート 1次・2次
- イ. 現地調査
- ウ. ネットワークづくり

4 現地調査の概要

(1) ノースカロライナ州（ロッキーマウント エッジコム郡）での現地調査

我々はグリーンビルから車で約1時間くらい離れたエッジコム郡で現地調査を行った。生徒数はミドルスクールだけで740名のウエストエッジコムスクールを拠点に約3日間にわたって中学生の放課後の過ごし方を調査をした。

ウエストエッジコムスクールの生徒が参加しているものには以下のような活動があった。

- ア. 学校の施設を使って行……………スポーツはシーズン制。年間を通じて同じ種目ではない。コーチは教師でない場合も多い。
*時間は3時以降5時くらいまで。
*スクールバスは3時過ぎには出るので活動が終わったら親が迎えに来る。
- イ. 「4-H」の取り組み……………生涯教育の一貫として行う。いろいろなカリキュラムがある。一人でいくつもの活動をしている生徒も多い。
- ウ. 教育委員会が準備したもの…レクリエーションプログラムなどを用意している。
- エ. BOYS AND GIRLS CLUB……………学校とは別の場所にあり、地域の人々や企業の援助で運営されている。
- オ. YMCA……………いろいろなプログラムが用意されている。
- カ. 教会の活動
- キ. ボーイスカウト・ガールスカウト

学校の施設の案内や数名の生徒や保護者にも話を聴き、アンケートを実施することができた。

また、「ボーイズ・アント・ガールズ・クラブ」（ロッキーマウント）やYMCA（ロッキーマウント ファミリー）も訪

問した。

(2) ミネソタ州（レッドウッド郡を中心）での現地調査

初日はミネアポリス近郊のエンロー先生のお宅でお嬢さんとそのお友達に具体的にインタビューして仮説の検証をできる限り行った。アンケート実施。その後、お嬢さんのセリーンさんが通っているプライマウスミドルスクールを訪問。校長先生に校舎を案内していただいた。

2日目はミネアポリスから西に約2時間あまり車で行ったところのレッドウッドフォールズで調査をする。レッドバレー中・高等学校はカリキュラムも先進的で校舎や教室の配置にも工夫されていた。校長先生にお話を聴き、ここでの中学生の過ごし方を聴いた。ここは人口も少なく通学範囲も広いので、ノースカロライナ州エッジコム郡のように放課後の活動（アクティビティー）の選択の幅が広くなく、両親とも働いている場合が多いのでほとんどの生徒が学校で、放課後いろいろなスポーツをシーズン制で行っている。ただし、保護者が連れて帰ることができない場合は参加できない。選択できる種目はフットボール、バスケットボール、野球、クロスカントリー等である。

ノースカロライナ州（ロッキーマウント エッジコム郡）と同じように生徒にアンケートとインタビューを行った。

5 考察・まとめ

当初、我々は日本とアメリカの中学生の放課後の過ごし方はずいぶん異なっていると考え、仮説をたてていたが、実際に調査を実施して中学生の考えや日常活動していることはそれほど違いはないということがわかった。以下まとめてみると、

ア 日本もアメリカも中学生の放課後の生活のパターンはあまり変わらない。

- ・いろいろなスポーツを楽しんでいる。
- ・テレビを視聴する。
- ・友達と遊ぶ。
- ・宿題をする。

イ アメリカ（エッジコム郡、レッドウッド郡）では中学生段階ではほとんどアルバイトをしていない。……………法律上16歳からでないとはならない。

ウ アメリカ（調査地域）の保護者や教師の中にも日本と同じように子どもに勉強をしてほしいという願がある。

しかし、明らかに異なることもある。それは次の点である。

ア 日本では「塾」に通っている生徒が多いがアメリカ（エッジコム郡、レッドウッド郡）では「塾」がないので学習塾に通う生徒はいない。

イ 放課後の行動（生活）がアメリカでは非常にバラエティーに富んでいる。そのための地域（コミュニティー）・教育委員会・学校等での様々な活動が用意されている。行政・地域・学校・家庭が協力して、子ども達が自主的に希望する活動を選択できるようにしている。

ウ 日本の親は子供たちに対して学力を身につけてほしいと考えているが、アメリカの親たちは学力よりも自主性を伸ばしてほしいと考えている。アメリカでは中学生くらいになると親が子どもに強制的に勉強させることは難しいと考えている家庭が多い。それよりはむしろ子どもを自主的に活動に参加させ、自主性を伸ばすことを重要視している場合が多い。その一方でアメリカの親のなかにも将来のために学力もつけさせたいという考えもある。

つまり、アメリカでは子どもの将来を見通しながらその自主性を伸ばし、可能性を引き出すために子どもの希望に応じたさまざまな活動が選択できるように用意されている。ただし、地域によっては人口の関係等から学校でさまざまな活動が準備されている場合もあるが、学校の活動とは一線を画している。

一般的にいつて日本やアメリカの中学生の放課後の過ごし方やそれについての意識は大差がない。しかし、日本社会では子どもに学力をつけることが最も大切にされる傾向にある。アメリカ社会においては子どもに自主性をつけることが最も大切にされる傾向が見られる。そのため日本では塾や教師主導の部活動に生徒の放課後の活動が一元化される傾向があるが、アメリカでは多様な選択が準備され、生徒の自主性を伸ばそうとしている。

ところが、日本では子ども達の現状から自主性が求められており、アメリカでは子ども達にさらに学力をつけさせたいという希望が見られるようになってきている。

今回の調査結果に基づいて教材化し指導することによって、生徒たちに日本とアメリカの中学生の放課後の過ごし方には多くの共通点があり、それぞれが大切にしているものに違いがあることを理解させていきたい。また、それを通して考え方や価値観の違いを理解し、視野を広げ、お互いのよいところを取り入れて現在の自分の生活や将来への見通しを考えさせるきっかけとさせたい。

最後になりましたが、お世話になったスペンス先生、エリクソン先生並びに現地で協力してくださった先生方、生徒のみなさん、地元の方々に心から感謝いたします。



ノースカロライナ州
グリーンビル
フレンドシップパーティー



ミネソタ州
レッドウッドフォールズ近郊

6 現地調査及びワークショップの日程とその主な内容

日時	日程・場所	主な内容	協力者
8月1日 (月)	9:10 ヒルトンイン出発 9:30 エキストーリアンセンター着 於 ロックスプリングス	・現地調査打ち合わせ 1 スpens先生の話 2 デイビッド先生の挨拶 (エッジコム郡教育長) 3 小栗さんの挨拶(日米財団) 4 溝上先生、小篠先生の紹介 チームのテーマ及び各パートナーの紹介 spens先生から 5 ハジンズ先生の話	
	10:15 エキストーリアンセンター	・チームごとの打ち合わせ ピット郡の教育の概略説明、教育制度 エッジコム(訪問先)の学校の説明及び校長先生の経歴紹介 生徒たちの放課後の生活の概略説明……サマージョブ、親の手伝いなど チームでspens先生の話の内容の確認をする。	spens先生 小栗さん
	11:10 エキストーリアンセンター	・Children's museum about The World の説明 ・グリーンビル市長 N. ジューイズ女史挨拶 ・ECU副学長 J. ザーブルー先生挨拶	館員
	11:30 エキストーリアンセンター	・昼食会 サラダを中心にした軽食で会食 ・その後、各チームはパートナーと現地調査に出発	ECUメンバー 市長 その他
	13:00 West Edgecomb School着 於 図書室	・ウエストエッジコム学校を訪問 デービス校長先生、ケイル副校長先生、オーエンス先生が歓迎してくださる。 学校の概略説明 学年制のこと	デービス先生 ケイル先生 オーエンス先生 spens先生

14:00 West Edgecomb
School
於 図書室



リサさん



シャロンさん

15:30 West Edgecomb
Schoolを出発

8月2日
(火)

7:30 ヒルトンイン出
発予定
7:40 ヒルトンイン出
発

放課後の生活について簡単に説
明

クラブのこと

- ・ 4-H Agentの説明
リサ・ウォールトンさんの説明
4-Hの由来、活動状況について
もともと農家（農業従事者を対
象にしている）の人々の教育活
動から出発している。
5歳から大人の生涯教育まで行
っている。

4-Hとは Head 頭
Hand 手
Heart 心
Health 健康

- ・ 4-Hに参加している生徒のシャ
ロン・エイジャースさんのプレゼ
ンテーションを見る。
このプレゼンテーションは4-Hのいろ
いろある中の一つであった。

馬の手入れの仕方

(毛並みの手入れの方法)

手作りの馬の模型を使ってた
てがみの手入れ等のやり方を
実演する。

ラボ教育

日本との交流について彼女の
経験を交えて説明。

来年、日本に来る予定。

- ・ 途中、工場によってホテルへ帰る

リサ・ウォールト
ン
さん
シャロン・エイジャ
ースさん

デービス先生
ケイル先生
オーエンス先生

スパンズ先生

- ・ スパンズ先生の迎え。予定時刻の
関係でホテルの前で待つ。
- ・ 昨年の研究員の小嶋先生が来られ
ている関係で1度スパンズ先生の
お宅に寄り、ロッキーマウントの
エッジコム郡へ向かう。途中、大
豆畑、トウモロコシ畑、タバコ畑
が沿道から広がっている。約1時

スパンズ先生

8:30 West Edgecomb
School着
於 図書室

9:00 West Edgecomb
School



図書室での様子



デービス校長先生と
ケイル副校長先生

間のドライブ (平均時速100km)

- ・ コーヒータイム
ジュース類・温かい紅茶・ドーナツを用意して下さる。
昨日の先生方に加えてイースン先生が出迎えて下さる。
オーエンス先生のクラスの生徒5人も来てくれていた。
- ・ 校内見学。オーエンス先生と5人の生徒たちが一緒に案内
学校の成り立ちの説明及び校舎見学

この学校はエレメンタリースクールとミドルスクールが同じ校地にある。大きな学校である。この学校の一番古い校舎からはじめて学校の主な施設を説明を聴きながら廻る。

普通教室・特別教室・カエテリア・体育館・中学校の教室・コンピュータ教室等を見る。

3時にはスクールバスが学校を出るが活動シーズンだけ自分の選択でスポーツができる。活動が終わったら保護者が迎えに来る。

- ・ 中学校の概略説明を聴く。

学校の学年制

キンダーガーデン	5歳
プライマリ-エレメンタリー	3学年 (6歳~8歳)
エレメンタリー	3学年 (9歳~11歳)
ミドル	2学年 (12歳~13歳)

学校によって学年制は異なる。エレメンタリーとミドルの区別が違う。ほとんどの学校がミドルは11歳~13歳(6年生から8年生)

14歳~18歳までが高校だけれどこの学校とは別の所にある。

2学期は8月22日からスタート

デービス先生
ケイル先生
オーエンス先生
スハンス先生

10:40 West Edgecomb
School 図書室



オーエンス先生

先生は8月15日から仕事が始まる

1クラス…… 24人

授業は成績で分けられる。

ミドルは教科担任制。エレメンタリーは学級担任が授業を行う。

全ての生徒のデータはコンピュータに入っている。

カリキュラムは州→郡→学校（学校間では同じ学年は同じ内容を学ぶ）というようになっているが学校に主体性がある。

- ・この学校の先生、保護者、生徒に放課後の生活の様子を聴く。
- ・オーエンス先生がこの学校の生徒の放課後の過ごし方について説明。
 - 1 とてもバラエティーに富んでいる。
 - 2 一人の生徒がいくつもの活動に参加している。
 - 3 活動場所は活動の内容によってさまざまである。
 - 4 自分の興味に応じて選択している。

デービス先生
ケイル先生
オーエンス先生
イースン先生

ジコティイ・テイラーさん

オリビイさん
ステシーさん
ジェマール君
ホビー君
シャリスさん

放課後の活動について

学校に残っておこなっているもの

- ・チアリーダー
- ・バスケットボール
- ・ソフトボール
- ・野球
- ・数学研究会（数学に関心のある者）
- ・本を読む会
- ・音楽……バンド（音楽が好きな生徒）
- ・医療関係・老人の世話

この学校で15～20くらいのプログラムがある。

学校外でやっているもの



5人の生徒たち

・4-H

プレゼンテーションをする
動物に関すること
花の育て方に関すること
老人のケア等に関すること
飢餓・難民に関すること
など

・ボーイズ・アンド・ガールズ・クラブ

・YMCA

・教会の活動 聖歌隊やハンド
ベルなど

放課後の活動の選択の幅はずいぶん広い。

一人でいくつもの活動をしている生徒が多い。

Community が重要な役割を担っている。

・活動時間

4-H 放課後

Boys and Girls Club... 放課後

YMCA..... 放課後

教会の活動..... 放課後

・ディスカッションをする。

・日本の現状についての質問が出る
女性の社会進出について... 小さい子どもがいる場合などはどうしているのか... 保育所に預ける

・今回の研究調査の目的を話す。

昨年 of 英文の報告書を見てもらう。

・放課後の活動について要求を保護者（親）や教師はするが強制はしない。結局は自分の選択である。基本的には自由……勉強をしようが遊びをしようがサマーキャンプに行こうが自由である。

・学校の日程について

登校してカテリアで朝食をとる生徒もいる。

・生徒たちに質問

デービス先生

ケイル先生

ホーンス先生

イーソン先生

ジゴティ・テイ
ラーさん

ホビイさん

スチーさん

ジマー・川君

ホビイ君

シャリスさん

12:00 ピザイン

- アンケートに回答してもらう。
- ・ 保護者に質問
自分の子どもの1週間の生活及び過ごし方について聴く。
 - ・ みんなで記念撮影をする。
 - ・ 昼食
生徒の昼食についてどんな風にとっているか等について話す。
この店にもよく生徒が来る。生徒がいくつかの基準を決めて自主的によい店を決定するという制度があり、この店のグレードはAであった。入り口にその証書が掲示してあった。

デービス先生
ケイル先生
イーン先生

13:25 Boys and Girls Club(ロッキーマウント)へ行く。

- ピュッフエ (パイン) 方式
チョコレートのトッピングピザがある。価格も日本と比べると安い。
- ・ ボーイズ・アンド・ガールズ・クラブの内容を聴く。
 - ・ 3歳から15歳まで
“インテイク” 水泳 バスケットボール 野球 テニス ローラースケート ショッピング 文字を書く 工作等がある。
小さい子ども達が床に座ってお話を聴いたり、テレビを見たりしていた。指導者(お話をする人等)は地域の農家の人や医者、警察官などがボランティアとして参加している。
 - ・ インタビュー
 - ・ 8人の子ども達(11歳~15歳)が自分たちのやっていることを一生懸命話してくれた。
- 11歳(ミドル)
別の所にあるジムでバスケットボールをする。2時~8時まで最終時間が8時までなので保護者は遅くても7時から8時の間に迎えに来てくれる。

デービス先生
ケイル先生
イーン先生
指導員
8人の子どもたち



8人の子どもたち

14:50 YMCA訪問
(ロッキーマウントファミリー)



シュワートさん

ここでは宿題をする時間もある
上級生が教えてくれるのでよい
15歳 (ハイスクール)

社会科や科学が好きである。
バスケットボールをしている。

- ・ホーズアウトガールズクラブに関して
- *一人の子どもにつき1週間に35ドルかかる。もし、保護者が支払うことができなくても参加できる。
- *地域の会社が年に1~2回お金を投資している。
- *資金集めのための集会を開いている。

活動資金や運営資金のために
地域が援助する目的。

例えばステーキディナー、
バーガーディナーで集める。…
一人につき100ドル位集める

- ・YMCAの内容について話を聴く
- ・地域の概略について説明を聴く。
- ・ロッキーマウント市はナッシュ郡とエッジコム郡に分かれている。活動状況の話も聴く。

YMCAのスタッフが学校 (ナッシュ郡…7、エッジコム郡…2)に出かけて指導している。

生徒12人につき1人の指導者で生徒の人数が13人から29人まで2人、30人を越えると3人というように指導者が生徒の数によって増える。このYMCAに30人のスタッフがいる。

やっていること

- ・学校で行う場合…スタッフが出張宿題・手芸・遊び・聖書…お祈りなどもある。
時間は3時~6時 (月~金)
- ・YMCAでやる場合
5時30分から7時30分(月~金)

トット シュワートさん

デービス先生
ケイル先生
イーソン先生

種目…サッカー バスケット
水泳

球技はシーズン制、水泳はインドアだから年間を通じて行う。

年齢別 月・水 5,6歳
火・木 7,8,9歳
月・木 10,11,12歳

・夏休みの子どものプログラムの一つの例として

Kid Construction Company Day Campについて

期間 10週間

年齢 6歳から12歳

時間 7:30~18:00

人数 70人

時間割 午前中に45分ずつ違ったゲームを3、昼食後、工作、歌、水泳、話し合い、野外活動など45分を2コマ

目的 友達を作ること
自主性を育てること
姉妹・仲間意識を身につけさせること
人格を形成すること
キリスト教の価値観を育てること

費用 メンバー 1週間に50ドル
メンバー外 60ドル

YMCAのメンバーは安く利用できる。

・アルバイトについて話した内容
14歳、15歳は限られた仕事しかない。法律的には認められないが仕事に就く生徒もいる。

16歳 法律的に就労を認められる。仕事は不安定。

18歳 きちんとした仕事に就くことが重要視される。就職もしくは大学へ進学する。

16:00 West Edgecomb
Schoolへ帰る



キリブローさん



ブランクリーさん夫妻

16:30 それぞれのホームステイ先へ出発

多くの場合55%が大学進学で45%が就職。

- ・懇談の後、YMCAの施設の見学
- ・ホームステイ先のホストファミリーが出迎えてくださる。
- ・校長先生から簡単にホストファミリーの紹介。

*キリブローさんご夫妻

ご主人 クレーターさん

農場主

綿花・大豆・タバコ

落花生を栽培 |

現在作って

いない。

奥様 ミリーさん

以前お店を経営。今

は専業主婦

*ブランクリーさんご夫妻

ご主人 マイケルさん

会社役員

奥様 スーさん

美容師・歌手

今回のホームステイ先は梶原、鍵本がキリブローさん、八松がブランクリーさんであった。

- ・学校の先生に見送られて期待と不安のホームステイが始まる。

キリブローさん宅

二人を地元のクラブの集会につれて行ってくださり、紹介。

集会での会議を傍聴する。地元の名物料理を参加者と一緒にいただく。

広大な農場を見学する。

アメリカと日本の生活について意見交換をする。


温かいもてなしを受ける。

ブランクリーさん宅

夕食は家庭料理でもてなしを受ける。ご息子のデイブ(14歳)

キリブロー夫妻

ブランクリー夫妻

		<p>のミッドルスクール頃の話を聴く。お嬢さんのジュリーとも話す。その後、ブランクリーさんのおとうさんご夫妻が来られ、広島のことや日本の教育について話す奥様のスーさんがお得意の歌を聴かせてくださる。</p>	
<p>===== 8月3日 (水) =====</p>	<p>8:30 West Edgecomb School着</p> <p>9:00 West Edgecomb School図書室</p> <p>9:30 West Edgecomb School図書室 教育長来校</p>  <p>ブライアント先生</p>	<ul style="list-style-type: none"> • それぞれのホームステイから学校に帰る。 コーヒータイム スペンス先生、溝上先生が来られる。 • 予定では教育長さんが話をされることになっていたが、少し遅れて来られることになったので副校長のケイル先生から日本の学校制度や教育の組織、生徒の学校生活についての質問を受ける。 • エッジコム郡の教育長デイビッドブライアント先生がエッジコム郡やアメリカの教育の現状を話された。大学教育と生涯教育の重要性と関連性を話される。 アメリカの教育の現状を見て、日本を見習わなければならない。つまり、社会の担い手としての人間を育成していくためには学校の授業日数などのことを考えなければならない。 • ディスカッション 教師が進路選択にあたってはどのくらいの関わりを持つべきか。 落ちこぼれた生徒についてはアメリカも日本も変わらない。自分自身の選択で大学を選ぶのではなく能力別的なランクが大学にできていて自分の希望通りにならない。 • 広島（日本）の現状、ノースカロライナ州の現状、エッジコム郡の 	<p>デービス先生 ケイル先生 スペンス先生</p> <p>ケイル先生</p> <p>デイビッドブライアント先生</p> <p>デービス先生 ケイル先生 スペンス先生</p> <p>溝上先生</p>

10:30 West Edgecomb
School図書室



マイケル先生と
スペンス先生

11:10 West Edgecomb
School出発

12:00 ヒルトンイン着

17:30 ヒルトンイン
出発

18:10 ハジンス先生宅
着

19:00 ハジンス先生宅
パーティー

21:15 ハジンス先生宅

現状について溝上先生、ブライア
ント教育長、スペンス先生が話を
される。

- ・エッジコム教育委員会指導主事
マイケル先生が教育委員会が放課
後の活動として行っているプログ
ラムの説明をする。

(1) 生徒の健全育成のための仕事

- *学校の生徒のチェック…生徒が
安全な学校生活を送れるために
- *親を呼んでのセミナー
- *生徒と教師のための教育プログ
ラム

*親も参加しての話し合い

(2) レクリエーションの企画

- *サマーレクのプログラム
- *年間を通してのレクリエーション
活動
- *エッジコム郡の他のレク組織と
の調整

- ・見送りを受けて出発。

- ・しばらく休息をして昼食。
- ・調査の簡単なまとめと買い物。
- ・スペンス先生の車で近くのスーパ
ーへ買い出し。日本に比べると安
い。

現地調達材料

ブラックタイガー

キャットフィッシュ(なまず)

エッグプラント(茄子)

- ・フレンドシップパーティーのメニ
ュー「てんぷら」にとりかかる。

- ・フレンドシップパーティー始まる
Cチーム出し物

日本の伝統的な遊び

福笑い

けんだま

実演をする。好評であった

- ・フレンドシップパーティー終了。

マイケル先生

デービス先生

ケル先生

スペンス先生

溝上先生

デービス先生

ケル先生

スペンス先生

ハジンス先生

ロシアから
の留学生

スペンス先生

	出発	スペンス先生の車に乗ってホテルに帰る。	
<p>=====</p> <p>8月8日 (月)</p> <p>=====</p>	<p>8:30 エリクソン先生 迎え</p> <p>9:10 ミネソタ大学ブ レゲンホールの 教室でミネソタ の調査の打ち合 わせ</p>	<p>・エンロー先生の話</p> <p>自分の研究テーマについて アメリカにおいてはテレビのある 部屋が一番大切である。それぞ れの部屋が自分のお城である。日本 においては部屋すべてが家族のも のであって、家の中では「和」を 習う。みんな仲良くなければなら ない。その一方で日本は序列を学 んでいる。自分の考えでは、</p> <p>① Child is No.1. 日本では生まれたときから塾に 行くまで（6年まで）が一番良 い時期である。文化の中にも子 どもを大切にしている行事がある。 アメリカでは思春期が良い時期 である。</p> <p>② Child is a creator. a builder. a maker. 日本においては子どもに創造的 な教育をしている。アメリカで はたくさん問題を1つの授業 で解いていこうとしている。日 本では1時間に1～2の問題を みんなで話し合いながらやって いる。日本の教育は型にはめら れていることが多いといわれて いるが、アメリカの教育では型 にはめることが大切である。ア メリカは競争社会であるのでも っと日本のように協力しあうよ うにしなければならない。</p> <p>③ Child is a citizen. 日本では多くの6年生が自分た</p>	<p>エリクソン先生</p> <p>エンロー先生</p>
	 <p>ミネソタ大学の教室での 打ち合わせ</p>		

9:50 同上

ちの力でいろいろな行事をこなしている。アメリカでは先生が休憩時間も一緒にいなければならない。目が離せない状況である。責任を持たずことによって社会性を身につけさせたい。

・ワンゲン先生の話

ミネソタ州教育省社会科専門官国際理解教育課長

国の政策がないことが日本と最も違う点である。

学校が独立しているから強制力がない。

州の教育委員会の方針を冊子の内容に基づいて話される。

ミネソタで目標にしたいことは忙しい教師に時間を与えることともう一つ生徒には自分で考えることが大切であるということをお教えることである。

ワンゲン先生

10:10 休憩

10:30 各チームごとの打ち合わせ

・エリクソン先生が黒板に書いて打ち合わせをする。

下記のようなになる。

8日(月)

11:00~13:00 食事

当初 植物園であった

13:00 インタビュー

3人

(ミドルの生徒)

14:00 ミドルスクール訪問

9日(火)

7:30 ホテル出発

10:00 レッドウッドフォールズ着

・中学校の校長先生と生徒に会う。

・エリクソン先生の学校を訪ねる。地域を訪問

・ローワー・スーのインデ

エリクソン先生

イアンの居留地を訪問
・ウォールナットグローブ?行くことができれば

18:00頃 ホテル帰着

行程 550km OR 700km

10日の予定は後日

・エリクソン先生に学校の様子等を尋ねる。彼の学校では放課後、学校でスポーツをしている。学校の先生がコーチをしている。コーチ料が支払われる。すべての先生がやっているわけではない。スポーツのできる先生がやっている。種目はシーズン制である。

音楽は音楽の先生が指導する。放課後、学校外で活動できる施設や組織がない。彼の学校は学校の中でも特別で1日の授業は1時限85分の4時限である。エリクソン先生が住んでいる町は人口5,000人位の小さな町である。

・4人で中華バイキング

とても感じの良いお店でたくさんの客でこんでいた。

・3人にインタビュー

セリーン 12歳 (インロー先生のお嬢さん)

ミリアン 14歳

キャシー 12歳 途中でおかあさんが連れてくる。バスケットボールに行くために帰る。

エリクソン先生
セリーンさん
ミリアンさん
キャシーさん

キャシーさんのおかあさん

11:40 昼食

場所 リアソ・フィン

12:50 エンロー先生宅



セリーンさん



ミリアンさん

質問をする。

放課後、何をしますか。

・宿題をやる。友達の家に行く。

ソフトボールをやる(シーズンでやる種目が異なる。)テレビを見る。寝る。電話でおしゃべり。



キャシーさん

- ・春や夏はソフトボールをする。教会へ行く。
 - ・ショッピングをする。
 - ・寝る。友達の家に行く。宗教学校へ行く（ユダヤ教 ヘブライ語）
 - ・バスケットボールをする。乗馬をする。
- 学校の様子を聴く。時間割は7時限で6校時だけが変わり、残りは固定クラス編成など1学年を5チームに分ける。1チームは60人から90人で1クラスは30人。
- ・バスケットボールのチームは2つに分けられている。（上手か下手か）
- 将来の希望は何ですか。
- ・精神医療の仕事に就きたい。
 - ・デザイナー 設計関係か服飾デザインをしたい。
 - ・子どもが好きなので小児科のお医者さんになりたい。
- なぜ、勉強するのか。
- ・自分の希望を実現するため。勉強を好きになるよう努力している。
 - ・校長先生の案内で学校施設等の見学をする。
 - ・メトロドームにその後出かける。

14:40 プライマウス
ミッドルスクール訪問
16:30 ホテル帰着

アーネット
校長先生

8月9日
(火)

7:30 エリクソン先生
迎え
7:45 出発
ミネアポリスより西
に約2時間ドライブ
(平均時速100km)
10:20 レッドウッドバ
レーミドルスク
ール着
校長先生を訪問

- ・これからレッドウッドフォールズまでのドライブに出発。
- ・途中、トウモロコシ畑、てんさい畑、大豆畑が広がっていて、眺めは最高。
- ・この学校は1991年に改築されている。広大な敷地の中にある。中学校と高等学校が同じ建物の2階と1階部分に分かれとても整備されている学校が夏休み中なので清掃等の整備の真っ最中であった。
- ・校長室は意外と狭く感じられたが

エリクソン
先生

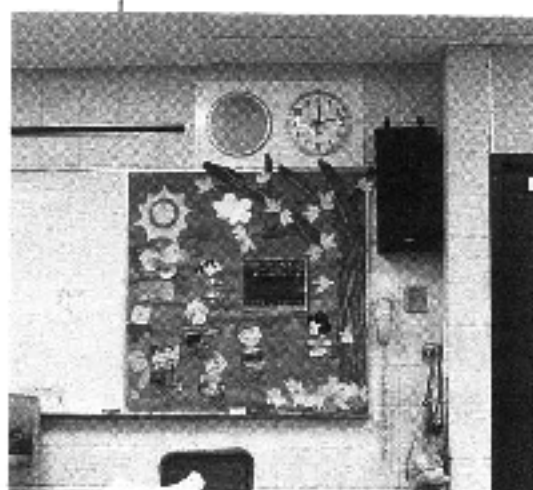
メシキ校長
先生

エリクソン
先生

11:20 学校施設の見学



メシキ校長先生



レトウットハレ中高校の教室
壁面の装飾



化学の教室

コンピュータが置かれ生徒の情報がきちんと整理されている。とても気さくな方で学校の生徒の放課後の様子などを丁寧に話して下さる。

・エリクソン先生の案内でまず、中学校の教室から見学。この校舎はいろいろと工夫してある。共通部分が校舎の真ん中にあり、それぞれの学年で分かれ、ディスクバリー、チャレンジャー、エンタープライズ、エンデバーと名付けられている。4教科（英語、社会、数学、理科）が1つのコーナーにまとめられ、授業にも工夫がされている。クラス合併で1つの教科の授業をしたり、単独のクラスで行ったりしている。カリキュラムについては4人の先生の話合いのもとで決定され、校長先生もその考えを尊重している。1時限は基本は50分だが20分とか80分とか弾力的に運用している。

- ・障害児学級を見学。
- ・学年ごとの教室をまわる。
- ・メディアセンターは中学校と高等学校が一緒に使う。情報教育関係の本を増やしているので小説などの本は少ない。コンピュータ関係の雑誌を数多くそろえている。
- ・放送室を見学。とても機器が充実しており、生徒会選挙の時は立候補者の演説が一斉に放送される。
- ・高等学校の見学。同じ建物の1階部分。教科ごとに分かれている。中学校と同じように教科ごとで教室と先生の部屋がまとまった空間に配置されている。例えば、音楽はバンドやコーラス、個人レッスンの部屋に分かれている。バンドの教室はホールのようになっていた。その他の教科の教室も見学。

エリクソン
先生

12:40 見学終了	<p>・体育館見学。バスケットコートが2面以上とれる大きな体育館。床にカーディナルスと書かれ、座席は左右から移動式で設置できる。この体育館は体育の時間や生徒たちの放課後のクラブ活動に使われているが早朝6時頃から社会人も使っている。</p>	
12:50 トレーニング室で運動をしていた生徒にインタビューをする	<p>・スティーブ、アンディ、デイビッドの3人(13歳 8年生)</p> <p>放課後は学校でシーズンごとに異なるスポーツをする。野球…4月～6月、フットボール・クロスカントリー…9月～11月、バスケットボール…11月～3月まで。</p> <p>家に帰ってからはテレビを見る、食べる、友達と出かける、宿題をやる、スポーツをすると話していた。彼らの夢はプロバスケットやプロ野球の選手とか経理関係のビジネスマン、メディア・ジャーナリズム関係の仕事につきたいと話していた。</p>	スティーブ君 アンディ君 デイビッド君
14:00 ファーストアメリカン銀行のバウレンジメントである奥様のシャリーさんと会う	<p>・レッドウッドフォールズを中心街にある銀行。我々を歓迎してくださる。銀行を案内してくださる。</p> <p>・たまたまご子息のライアン君とも会う。(高校生)</p>	
14:30 州立公園の中にあるラムジー滝を見学	<p>・住宅街からさほど遠くないところに自然に恵まれた公園がある。ちょっとした動物園、キャンプ場、ゴルフコースがある。今年はこの地方も天候不順で水が少なく滝一面に水はなかった。秋には日本のように紅葉し、常緑樹の緑とのコントラストがすばらしいとのことである。</p>	エリクソン先生
15:00 エリクソン先生宅訪問	<p>・自宅を案内してくださる。庭にリンゴの木がある。犬と猫がいる。1階がリビング、ダイニング、台所と居間(三方が窓)テラス、ライアン君の部屋、2階が寝室、地下にはくつろぎの部屋と来客用の部屋があつ</p>	エリクソン先生 ガス……犬 マックス……猫

	<p>15:15 ロー・スー エージェンシー 訪問</p> <p>16:00 居留地内のカジ ノ見学</p> <p>17:15 レッドウッドフ ォールズを後に して一路ホテル に帰る</p> <p>・途中休憩</p> <p>20:00 ホテル到着</p>	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この地のネイティブアメリカンの歴史のビデオを見る。 ・いろいろな資料（写真や実物）を見る。 ・居留地の中で許可されているカジノ見学。多くの人がいてゲームを楽しんでいた。遅い昼食をとる。各自メニューから選ぶ。スパゲッティやクイーンサイズのステーキを頼んだがとても量が多く驚く。ステーキにラデッシュソースをつける。付け合わせの人参・ポテトもおいしかった。 ・我々も1度スロットマシーンをサービス券でやる。 ・郡の道路、州の道路、国の道路それぞれの違いがあつて興味深い。まっすぐな道が続き、郡の道路などは対向車も前にいる車も見かけないことが多かった。 ・州の道路については月に2回、ボランティア団体や家族単位で清掃をするとのことであった。 ・1日冷たい雨が降り続く中、往復約500kmの長い「小旅行」が終了。 	<p>エージェン ト2名</p> <p>エリクソン 先生</p>
<p>===== 8月10日 (水) =====</p>	<p>8:30 ホテルで朝食。 エリクソン先生 と一緒にテーブ ルにつく。</p> <p>9:20 出発。スーパー マーケット見学 及び買い物。</p> <p>11:20 ターゲットを出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少し話をしながら、今日の予定を詰める。 ・サウスデールにある、ターゲットに行く。 ・新学期セールと銘打って文房具などが安くなっていた。今日もこの時期には珍しくとても寒く、15度位であったので厚手の洋服がほしいくらいであった。今回は天気恵まれずミネアポリスは今日も雨だった。 ・それぞれのメンバーは思い残しも 	<p>エリクソン 先生</p>

発	少しあったが、たくさんの買い物袋をエリクソン先生のトランクに入れた。	
11:30 切手を買う。	・郵便局に行く。記念切手を買占める。梶原先生は丹精込めて書いたはがきを日本に向けて投函。我々も（エリクソン先生も）一緒に切手を貼る。	
12:15 ホテルに帰る。	・午後に備えて、昼食を食べに行くことにする。	
12:45 ダウンタウンに出かける。	・ダウンタウンに歩いて出かける。百貨店のデイトンで買い物をする。	
13:00 合衆国南部地方の料理を食べる レストラン…… TAJAS(タハス)	・各自銘々にメニューから選ぶ。出てくるまでがお楽しみ。料理の味はチリソースのためホットということであったが……。目の前に出てきてみるとなかなかおいしかった。メニューに興味があったのでもらって教材にすることにした。	
13:50 ホテルに帰る。		
14:00 報告書を作るためのまとめにかかる。	・いよいよ報告書作成に向けて最後の詰め。エリクソン先生を交えて調査のまとめを作る。昨夜のミーティングの疑問点を話す。調査研究の内容を深めるためにディスカッションをする。ミネアポリスの中学生も日本の中学生もあまり変わらないこともわかった。	エリクソン先生
ホテルの部屋	<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの生徒は宿題のことを気にしないが日本の生徒は気にする。女子の方がその傾向が強い。（交換留学生の様子から） ・ホッケー・空手・バスケなどの放課後の活動に参加している生徒はユニフォームや旅費等のためのお金が必要である。 ・高校のスポーツ活動においてはチームが勝たなければ意味がない。コーチがクビになることもある。 	



エリクソン先生

・1シーズンに15ドルかかる。ボランティアがいないとスポーツは成り立たないし、たくさんの企業が寄付をしている。

・仮にお金が支払えない生徒がいても他の保護者がお金を援助してくれる。共同体全体で子ども達の面倒を見ている状況である。

・保護者は自分の子どもが放課後の活動をするのがよい方向につながっていると考えている。…麻薬や不良行為に走ることを危惧している。

・アメリカの親のなかには勉強に対して敏感で、強制的にわが子に勉強させている親もいる。

・しかし、大多数の親は、勉強をするようには言うが強制はしない。多くの保護者は共働きであり、放課後自主的にいろいろな活動に参加し健全に過ごしてほしいと願っている。

・ほとんどの親は、勉強が大切であると考えている。

・13・14・15歳は、反抗期に当たり、髪型や服装や鼻輪をして反抗する子もいる。自分の親を馬鹿にしている生徒もいるが16~18歳の時期は親が自分に期待していることに感謝し自分の目標もはっきりとしてくる。子ども自身はアイデンティティを持っている。

・親は、十分な教育を受けることができなかつたら、将来、我が子がどんな厳しい状況に置かれるかをよく知っている。だから強制的に勉強させたいがそれは戦争をするに等しい状況になるのでアメリカの親はさせない。自主的に参加したいものを選ぶことにより、自主性を伸ばさせることができると考えている。

・日本の教育もアメリカの教育も経

済大国であることからすれば、成功していると思う。どちらの教育がよいとか悪いとかというのではなくよい点を共有しようとする姿勢が大切である。（個人的意見）

・アメリカでは大学に途中編入する事ができる。つまり、やる気になったときには自分の能力を活かした大学に行くことができる。

・たいていの大学は年間1万ドルかかる。最も費用のかかる大学で年間で2万6千ドルである。

・アメリカの学生は大学に入学した後も勉強をしないといけないという状況に置かれており、いつもストレスを持っている。日本ではいったん入学すればプレッシャーはなくなっていく。日本の生徒は大学に入る前にプレッシャーがあると思う。

・お互いの良い点を学びあおうとしている。現在、アメリカでは集団教育を目指そうとしているし、日本では個人の自主性をのばそうとする教育を目指している。アメリカの学生は個人の自主性を重視する傾向が強いが日本の学生は協調性を大事にする傾向が強い。しかし、どちらがよいというのではなく双方のよいところを勉強しあってよりよいものになればよいと思っている。不可能かもしれないが、アメリカの学生は独自性を押さえて協調的になるべきであり、逆に日本の学生は協調性を押さえてもっと主体的になるべきである。

大変有意義であり、充実していた。

・昨日いただいたミネソタのTシャツを着て3人はエリクソン先生の車に乗る。

・エンロー博士の家でパーティー。

16:00 一応終了

16:15 ホテル出発

16:35 エンロー先生宅

エリクソン先生

ミネソタの

	<p>着</p> <p>19:00 エンロー先生宅 を出発</p> <p>19:30 ホテル到着</p>	<p>庭でホットドッグのソーセージ（ドイツ風）をボブ・エリクソン先生が焼いてくださり、心尽くしの料理でもてなしていただく。現地調査最後の晩を別れを惜しみながらも楽しく過ごす。</p> <p>・我々もチームの出し物をする。昨日、男の子たちに受けていた風船笛の調子が悪く、音が出なかったのが残念であった。</p> <p>・ミネソタのパートナーのエリクソン先生とお別れ。今朝、先生の住んでおられるレドウッドフォールズで激しい雨が降り、先生のお宅の地下の部屋が水浸しになって大変だったのにもかかわらず我々の調査に快く協力してくださったエリクソン先生。一緒に竹とんぼを飛ばしたこともよい思い出となった。</p> <p>・シャーパーン先生の車でAチームと一緒にホテルに帰る。</p>	<p>関係者</p> <p>エリクソン先生</p> <p>シャーパーン先生</p>
--	--	---	---

レドウッドバレー中・高校の生徒（インタビューした生徒）



スティーブ君



アンディ君



デイビッド君